



『一年間の準備期間』

校長 門脇 伸也

今月は、令和4年度の締めくくりです。そして、春の花の開花から、春のありがたみを感じています。さて先日、東京都の新型コロナウイルス感染者数減少の報道を受け「ありがたい」と医療関係者の方を前にして言葉が出た時、「校長先生、まだ新型コロナウイルス感染症は収束していません。まだ感染症予防対策は必要です」と言われました。気を許さずに、令和5年度への準備をしまいにします。

今号では、令和5年度に向けたお知らせをさせていただきます。そして、令和6年度に向けての一年間を、コロナ禍の3年間で縮小・停滞した教育活動を全開するための準備期間とさせていただきます。もちろん、感染症予防対策は適切に行ってまいります。

① 校外学習について。先日の28日に本年度最後の校外学習として、中学部の遠足を行いました。事前の美術の授業では現代アートを学習し、当日は、六本木ヒルズの森美術館で作品の鑑賞を行いました。本校からの移動距離や時間が少なく、鑑賞時間や子どもたちの体調を整える時間を大切にできました。コロナ禍以前の計画を見直し、新たに見学施設の検討を重ねたことで、日頃の学習活動と繋がる見学先や体験施設が新宿区及び新宿区に隣接する範囲内で多くあることや、文化・教育面で充実した施設の集中している地の利を生かすことができました。



② 宿泊を伴う行事について。コロナ禍以前より医師派遣の協力をお願いしてきた大病院や区医師会へ、医師の派遣依頼をしました。前向きな回答を得てホッとしています。ただ、「新型コロナウイルス感染症は収束した訳ではない」ことや「小児科医が不足している中、医師派遣ができないこともあることは理解しておいてください」とも言われています。令和5年度は、中学部の宿泊を伴う行事の再開、令和6年度は小・中の両学部の再開と順に進めてまいります。

③ 医療的ケア児専用通学車両の登校・下校便の看護師同乗について。令和元年度に専用通学車両1台が運行し始め、令和3年度には保護者代理のヘルパー同乗、令和4年度には登校便の事業所委託看護師の同乗、そして令和5年度から下校便も事業所委託看護師の同乗を開始します。現在の事業所から新たな事業所となります。よって、継続して専用通学車両に乗車する児童・生徒の引継ぎについて、4月当初の保護者様の負担をどのようにして減らせるか、区と検討をしています。新たに乗車する児童・生徒については4月当初、保護者の方の同乗などご協力をいただくことになります。

④ 卒業式について。来賓に関しては、失礼ながら縮小して8名となります。卒業生のご家族は各家庭より2名とし、マスクは全員着用していただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

⑤ プール指導（水治訓練）の実施の曜日が一部変更となります。「火・木」から「水・木」となります。改めて、お知らせをいたしますが、年間を通しての指導期間は、従来どおりです。

⑥ 欠席の連絡の方法について、お手元のスマートフォンなどから連絡ができるようになりました。事前にお知らせを配布させていただいております。3月中は切り替えの時期として、ご活用を是非始めてください。

最後になりますが、今年は例年になく春の温かさの訪れが早いようです。校長室の窓を開けてみますと、2月中旬より短い周期で三寒四温を繰り返し、桜のつぼみが日を追うごとに膨らんでいます。卒業式には、開花も有り得そうです。保護者・地域、関係機関の皆さまより、卒業生の門手を祝ってくださればと願っております。

「令和4年度セーフティ教室を実施して」

生活指導部

1月20日(金)、新宿警察署のスクールサポーターを2名お招きして、セーフティ教室を開催することができました。感染症の拡大により2年ぶりに来校していただいた警察の方には、不審者役や教職員の対応指導、並びに児童・生徒への安全に関する講話をお願いしました。はじめに見知らぬ人という想定で警察の方が校内を歩き回ると、教職員は速やかに児童・生徒の前に立ち、進んで「不審者」に働きかけ退去を促しました。次に「不審者」が豹変して暴れ始めた場面では、校内緊急放送や緊急アラームの発令、学校110番、教室内の施錠や対応教員の出勤、防具での不審者対応、児童・生徒の点呼報告など、有事に備えた様々な動きを速やかに行い、無事「不審者」の身柄を確保することができました。

アラームが鳴り響く間、不安を見せる児童も見られましたが、全体を通して児童・生徒がとても落ち着いて参加することができました。講評の場面で警察の方から、全校が一体となって真剣に訓練に取り組んだことと、児童・生徒がとても落ち着いて行動できたことについて、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

これからも緊張感をもって訓練に臨み、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう努力していきたく思います。



「副籍交流における活動の紹介」

支援部

2月15日(水)、地域指定校に小学部6年生の児童が登校し、今年度初めての対面での直接交流ができたことを紹介します。

活動する教室は2階だったのですが、地域指定校の児童が出迎えてくれ、最近設置された階段昇降機を使用してスムーズに移動することができました。「学級活動～交流会～」に参加し、地域指定校の子供たちの考えたゲームを2つ行った後、「6年間の副籍交流思い出のスライドショー」を鑑賞し、寄せ書きとアルバムを贈ってもらいました。

副籍交流を終え本校に登校してきた児童は、本当に楽しかったと目を輝かせて交流の様子を教員に報告していました。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で思うような交流ができない時期が続きましたが、オンラインでの交流の積み重ねによる、子供たちの継続的な繋がりを感じることでできる6年間の締めくくりの交流となりました。



「連合作品展」

支援部

1月21日(土)から約2週間、新宿区立新宿文化センターで連合作品展が開催されました。本校の校内作品展で展示された作品の他、新宿区内の小・中学校特別支援学級の児童・生徒の作品も展示されました。近年、本校は写真や動画等での鑑賞を行っていましたが、本年度は学部ごとにオンラインで鑑賞会を行うことができました。今回のオンライン鑑賞会では、「気に入った作品を見つける」というねらいをたて、選んだ作品の学校宛に感想カードを書くという活動を行いました。「ケーキがおいしそうだった」、「刺繍がきれいだった」などという他校の作品への感想や、「自分の作品も見てみたい」という感想もありました。自分が作成した作品や他の学校の作品がどのように飾られているのか知ることができ、子どもたちにとってよい機会になったのではないかと思います。何校もの学校が協力して作り上げた素晴らしい作品展となりました。



研究部より

「中学部・訪問学級 ICT 活用実践紹介」

中学部

中学部マーキュリー・ビーナスグループでは、道徳の授業において自分の意見の絞り込みを PowerPoint を用いて行いました。ハイパーリンク機能を用い、4つの選択肢から2択をする質問を繰り返し行い、自分の意見に最も近いものを表現しました。タブレット操作が難しい生徒は教員と一緒に操作し最後まで絞り込むことができました。また、国語の授業では、スイッチを用いた、百人一首大会を行いました。上の句に対応した下の句が画面に表示された際に、スイッチを押して札を取る活動を行いました。他の生徒を意識しながら百人一首大会を楽しむことができました。

訪問学級では、視線入力装置を用いた風船割ゲームや射的ゲームを行いました。視線で様々なことを表現し、意思を表現する力を育成しています。合わせて、小さな楽器を用いて音の鳴る方に視線を向けるという「見るトレーニング」も行っています。

一つ一つの活動を振り返り、協議を重ねることで研究を進めていきたいと思えます。

